

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170100960		
法人名	株式会社 進幸		
事業所名	グループホームピアハウスPOP		
所在地	札幌市中央区北4条西16丁目1番3 幌西ビル2階 (電話)011-613-6490		
自己評価作成日	平成27年4月7日	評価結果市町村受理日	平成27年7月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設しているデイサービスとの合同でイベントを行い、多機能型のメリットを活している点、ヒバを使った浴槽によりリラックスした入浴が出来る点、近隣の幼稚園児との定期的な訪問をうけ、双方に良い交流が出来ている点等があげられる。また、運営推進会議には利用者にも参加してもらい、意見を出してもらっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年3月30日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)グループホームの立地・設備・機能  
7階建てマンションの2階に、高齢者住宅・デイサービスを併設している1ユニットのグループホームである。共用の居間は食堂を兼ね広く、各居室は居間を囲む形で配置している。  
2)職員の介護姿勢  
管理者及び職員は、やさしく穏やかに明るい。利用者の尊厳やプライバシーを重視し、利用者を中心とした温かいケアを実践しており、家族の好感を得ている。  
4)運営推進会議  
定期開催しており、利用者・家族代表・地域包括支援センター職員等が参加し、行事予定と報告・地域との交流等が話合わせ、ケアの充実と事業所の運営に役立っている。  
5)地域との交流  
町内会行事の盆踊り・清掃・花壇整備に参加している。事業所の行事には地域住民が参加し、幼稚園児の訪問もある。地域とは信頼関係形成に努め、相互協力を強化している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、壁に提示し全職員で共有している。	法人の理念『…ともに笑い、ともに泣き、ともに悩み、ともに叫んで、同じときを 同じ空間で過ごし、暮らすこと…』は、事務所やホールに掲示している。グループホームの理念については作成を検討中である。		日々の清掃や整理整頓を主題とした短期目標を作成し、利用者の安心・安全・清潔に配慮したケアの実践に努めるよう期待したい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	イベントなどに近隣(北4条幌西ビル等)の方々が大勢参加していただけるようになり、また、同じ区内の幼稚園児との交流などが盛んに行えるようになった。	利用者と共に、地域清掃や盆踊りなどの町内会行事に積極的に参加し、幼稚園児が事業所を訪問する等、日頃から交流に努めている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、運営推進会議を通して夏祭りの行事などには近隣の方々に参加をしていただくなど、地域の人たちと自然に関わるように努めている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、意見を反映させるよう努力している。	定期開催している運営推進会議では、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告・地域との交流・防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市グループホーム管理者連絡協議会・区管理者連絡会で意見交換や情報収集し、積極的に行政情報を活用している。運営推進会議には区役所職員(地域第一包括)が参加している。	管理者会議・グループホーム協議会・区管理者連絡会などに参加し、行政方針の理解に努めている。職員は情報を共有化し、常に利用者本意の、サービスの質の向上に取り組んでいる。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけないケアを実践している。身体拘束や虐待について研修で学び、全職員に周知している。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、それをミーティング等で周知徹底し、防止に努めている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修、セミナーに出席し、必要性を認識している。実際に成年後見制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明し、理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、不満がある都度お話し合い、ミーティング等を通じて職員間で話し合い解決していった。また、運営推進会議において、利用者の意見を聞いている。	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聴いている。機関紙『POPだより』には、運営推進会議の内容を記載している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回、ミーティングを開き、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員参加の会議は月2回あり、意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境作りに取り組み、働きやすいよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画、職員の段階に対応して、それぞれの職員が研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会、研修会等を通じて、同業者との交流の機会を持っており、催事の共同企画、運営等に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から不安、求めている事等を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族等と接触出来るようにしているが、初期段階での家族の関わりがないケースもある。時間をかけて少しずつ理解していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員、家族とも馴染んでいけるよう相談工夫しながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から利用者から学んだり、支えあう機会を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは殆ど行き来のない人もあるが、声かけをきめ細かに行う事によって訪ねてきて聞いてくれるようになったケースもある。一緒に支えていく関係を築いていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者は、今までの関係を維持できているが、全体として支援出来ない。	一人暮らしの利用者が多く、身内や馴染みの人と交流が少ないのが現状である。事業所では日本古来の風習や生活習慣を大切に、節分・ひな祭り・七夕等を楽しめる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、食事の席を調整したり、また、レクリエーションを通してコミュニケーションを取れるようにする等支援が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状は出来ていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の希望にそっている。	共に生活する中で一人ひとりの思いや希望の把握に努め、得意なこと、出来ることを見極め利用者本位の対応を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握出来ていない利用者が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状をある程度把握出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話し合う機会を多く持ち、より良く暮らすためのアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化、対応について家族、職員、医師と話し合い、利用者がより良く暮らせるための介護計画を作成しケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の気づき等、記録から情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内にあるデイサービスの催しに参加させてもらう等、多機能性を活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が良い生活を送るために、地域の社会資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ以前から通っていた病院に通院している。	本人希望のかかりつけ医への受診送迎や連絡を行ない、常に適切な医療が受けられるよう支援している。看護師を配置し日常健康管理をしている。	利用者個々の、薬の保管場所や保管方法を全職員で検討し改善することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護職と相談し、健康管理や機能訓練を取り入れたりしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、法人嘱託医と相談し、日常の健康管理、緊急時の対応を含め、医療を活用した利用者の支援を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現実には重度化しそうな場合に家族、かかりつけ医等との話し合いが始まっており、より早期の段階での方針共有が必要である。	医療連携体制の下、『重度化した場合における対応に係る指針』を作成している。入居時から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命研修会に出席し、また定期的に看護師に指導してもらっている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。消防署の協力のもと避難経路の確認、消火器の使い方、設備点検も行われている。消防法に基づき、スプリンクラーの設置。	消防署参加のもと、年2回訓練を行っている。地域の人々の協力についても呼びかけている。ホーム内には消火器、火災通報装置・避難器具があり、スプリンクラーが設置されている。	火災以外の、台風・地震・竜巻などの自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、水・食料品・ポータブルストーブ・カセットコンロ等の災害時備蓄品の検討を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については、職員間でも注意し合い徹底している。	一人ひとりの人格を尊重し、個々の状態にあわせた声掛けや対応に気をつけている。		ヒヤリハットや事故について、精査検証し小さな事態についても記録に残すという原則を守り、介護に活かすよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人にわかりやすく話し、希望を聞き取り、自己決定出来るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し、一人ひとりに合わせて支援出来ている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、本人が望むどおりに行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、味付け等は利用者とともにやっている。	利用者の意見や嗜好を取り入れた献立を作成している。味見や片付け等と一緒にいき、共にテーブルを囲み和やかに食事をしている。	食中毒防止の為に、調味料等のボトルは床に置かず、調理台・食器棚・床は毎日清掃し、清潔第一を心掛けることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録してカロリー、栄養バランス・塩分摂取に気を配り、一人ひとりの身体、咀嚼、嚥下状態にあわせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な利用者には口腔ケアを行っている。また、月に一度、訪問診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を活用して排泄のパターンを把握し、自力排泄を促す等支援出来ている。	排泄チェックを行ないながら、排泄パターンを把握し、体調管理し、日中はトイレでの排泄支援を中心に行っている。	トイレや洗面台は、毎日数回の定期的な清掃が必要と思われる。ウイルスや細菌の繁殖に留意し、手拭き用として、布タオルではなく使い捨てのペーパータオルを使用することを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューを作成する時には、バランスの摂れた食事にするため、食材選びに気をつける。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂いている。入浴は強制せずに声かけなどを大事にしている。異性介助がないように行っている。体調不良や本人の気分などで入浴出来ない状態などの場合には足浴又は清拭対応を行っている。浴槽はヒバを使い木のぬくもりが伝わる浴室になっている。	一人ひとりの希望に合わせた入浴支援をし、リラックスして入浴できるようにしている。また羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が思い思いに暮らしており、利用者に合せた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援、症状の変化の確認に努めているが、全ての薬について全職員が理解しているとは言い難い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの長所を活かせるように役割りを持ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の活性化につながるよう日常的に買物や近くの遊歩道散策に出かけている。一人ひとりのその日その時の体調に配慮し、希望に沿った外出支援を心がけている。(パーマ・カラオケなど)	近くには、遊歩道のあるミニ大通公園があり日常的に散歩に出掛けている。自然に屋外へ出掛けられるように、外出計画が年間行事の中に多数盛り込まれている。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能な利用者には支援出来ている。野外行事等では各自にお金を渡し、買い物等の楽しさを味わっていただいている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援している。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にし、造花も季節によって変える等、工夫している。	リビングは広々としてゆとりがあり、畳敷きの小上がりコーナーもある。行事写真や利用者の作品が飾られ、ソファを配置して癒される空間となっている。	トイレ・キッチン・リビング・事務室等、整理整頓や収納が出来ておらず、雑然としている。利用者の視点で再点検をおこない、一度清掃業者に依頼し全館の徹底した大掃除をするとともに、職員の毎日のスケジュールの中に清掃時間を入れ、どのようにすると清潔な事業所を維持できるか、一人ひとりが考えながら行動することを期待したい。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が自分の居場所を確保できるよう心がけている。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具等を使用している。スタッフが担当ルームを決め、家族となって部屋等の装飾を話し合いながら行っている。	居室には自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺を配置し、段差はスロープになっている。日付や季節、時間等がわかりやすいよう工夫している。					